

## News Release

2026年6月24日

チューリッヒ保険会社

### 6月25日“無事故の日”に考える安全運転 全国のドライバーに「2026年あおり運転実態調査」を実施 ドライブレコーダーの利用率は69.7%、万が一の備えとして定着傾向に

チューリッヒ保険会社(東京都中野区、日本における代表者および最高経営責任者:西浦 正親)は、今年で9回目となる「あおり運転実態調査」を実施しました。本調査では、普通自動車免許と自家用車を所有し、週1回以上運転をしている全国の18~69歳の男女2,000人にご回答いただきました。

6月25日は、「6(ム)2(ジ)5(コ)」の語呂合わせから“無事故の日”と呼ばれる「指定自動車教習所の日」です。本調査では、専門家の見解も交えながら、最新のあおり運転の実態と、あおり運転に遭わないための工夫や、遭ってしまった場合の対処法、またドライブレコーダーの利用状況などを明らかにし、その結果を発表します。

今回の調査結果では、この5年以内にあおり運転をされた経験があると回答したドライバーは36.3%でした。また、5年以内にあおり運転をされた経験があると回答したドライバー400人が遭遇したあおり運転は「後方から激しく接近された(86.5%)」、あおり運転をされた際の対処方法は「道を譲った(52.5%)」が最多となりました。

あおり運転に遭わないための工夫と、「あおり運転をしている」と誤解されないために気を付けていることは、いずれも「車間距離をしっかりとる」の回答が最も多く、周囲に配慮した運転を心がけているドライバーが多い結果となりました。

ドライブレコーダーの利用状況については、自家用車にドライブレコーダーを取り付けていると回答したドライバーは2,000人中69.7%と過半数を占め、利用率は年々上昇しており、万が一の備えとして定着傾向にあります。ドライブレコーダーを利用している理由として、最も多かった回答は「事故やトラブルの発生時に自分が不利にならないようにするため(93.5%)」でした。ドライブレコーダーの普及であおり運転が「減少すると思う(20.5%)」「どちらかという減少すると思う(39.5%)」と回答したドライバーの合計は60.0%となり、あおり運転をはじめとする危険運転に対する抑止効果が期待されています。

当社は今後もドライバーの皆さまが安全にカーライフを楽しめるよう情報発信を続けてまいります。

#### 【調査結果要約】

##### <あおり運転に関する調査>

1. 5年以内にあおり運転をされた経験があると回答したドライバーは36.3%
2. 遭遇したあおり運転は、「後方から激しく接近された」が最多の86.5%。あおり運転をされた際の対処方法は、「道を譲った(52.5%)」、「何もしなかった(30.3%)」が上位
3. あおり運転をされたきっかけに思い当たることがないドライバーは62.5%。あおり運転をされたき

かけに思い当たることがあると答えたドライバーが考える理由として、「スピードが遅かった(36.0%)」、「制限速度で走っていた(30.0%)」と、走行速度に関する回答が多い結果に

4. あおり運転をされないための工夫は、「車間距離をしっかりとる(64.0%)」、「ウィンカーは早めに出す(45.5%)」。「あおり運転をしている」と周囲に誤解されないために気を付けていることは、「車間距離をしっかりとる(81.5%)」、「無理な追い越しや割り込みをしない(57.8%)」となった
5. あおり運転の厳罰化を盛り込んだ 2020 年 6 月の「改正道路交通法」の施行以前と比べて、あおり運転を経験・目撃する頻度は、「変わらないと思う」が 57.3%と最も多い結果に。「やや増えたと思う(14.1%)」「大きく増えたと思う(7.6%)」と回答したドライバーの合計は 21.7%、「やや減ったと思う(17.4%)」「大きく減ったと思う(1.4%)」と回答したドライバーの合計は 18.8%となった
6. あおり運転を防止するために有効だと思う施策は、「更なる厳罰化」が最多の 76.0%

※項目 2~4、6 の対象は、5 年以内にあおり運転をされた経験があると回答したドライバー400 人。項目 5 の対象は、5 年以内にあおり運転をされた経験があると回答したドライバー400 人のうち、法改正(2020 年 6 月)以前から運転をしていたドライバー368 人

#### <ドライブレコーダーの利用に関する調査>

7. 自家用車にドライブレコーダーを取り付けていると回答したドライバーは 69.7%
8. ドライブレコーダーを利用している理由として最も多かった回答は、「事故やトラブルの発生時に自分が不利にならないようにするため(93.5%)」。ドライブレコーダー導入のきっかけは、「自動車事故やあおり運転のトラブルに関する報道や SNS の発信を見たため」が最多の 66.5%
9. ドライブレコーダーを利用していない理由は、「機器の購入や取り付けに費用がかかるため(55.5%)」、「設置を検討中である(37.5%)」と続いた
10. ドライブレコーダーの普及であおり運転が「減少すると思う(20.5%)」「どちらかという減少すると思う(39.5%)」と回答したドライバーの合計は 60.0%。また、あおり運転の減少につながると思うドライブレコーダーの機能は、「常時録画(録音)機能(76.3%)」、「通報機能(42.0%)」

※項目 8 の対象は、ドライブレコーダーを利用していると回答したドライバー200 人。項目 9 の対象は、ドライブレコーダーを利用していないと回答したドライバー200 人。項目 10 の対象は、項目 8 と項目 9 の対象であるドライバー400 人

#### 【調査概要】

調査タイトル:あおり運転に関するアンケート

調査方法:インターネットリサーチ

調査期間:2026 年 5 月 15 日~5 月 22 日

調査対象:全国の普通自動車免許と自家用車を所有し、週 1 回以上運転をしている 18~69 歳の男女 2,000 人

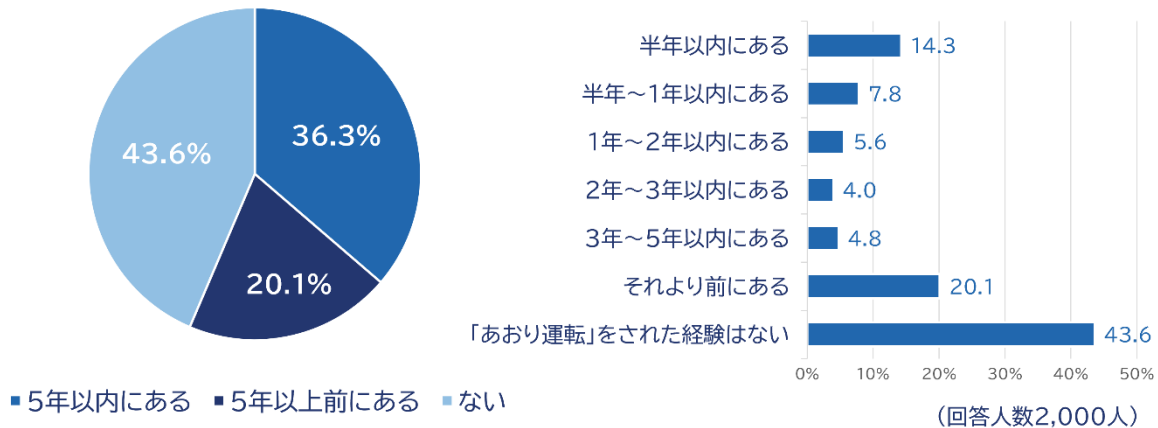
【出典について】本調査内容を転載される場合は、出典がチューリッヒ保険会社であることを明記くださいますよう、お願いいたします。

## <あおり運転に関する調査>

### 1. 5年以内にあおり運転をされた経験があると回答したドライバーは36.3%

5年以内にあおり運転をされた経験があると回答したドライバーは36.3%でした。一方で、これまであおり運転をされた経験がないドライバーは43.6%と、4割強の結果となりました。

#### あなたが運転しているときに、「あおり運転」をされた経験はありますか？



#### 【九州大学 志堂寺教授の見解】

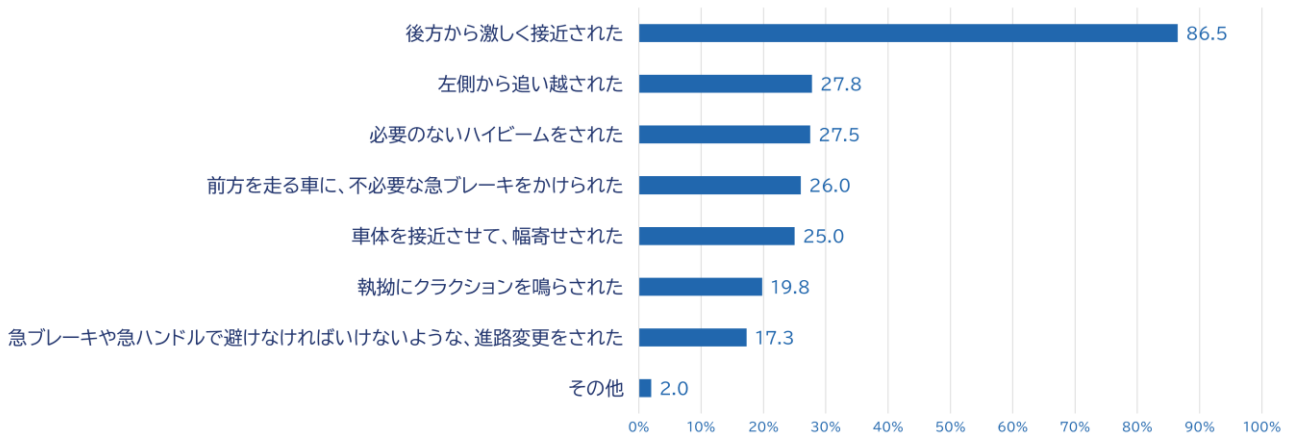
あおり運転の厳罰化を盛り込んだ改正道路交通法が施行されたのは2020年6月です。それから約6年が経過しましたが、今回の調査では「半年以内にある」と「半年～1年以内にある」の回答を合わせると、22.1%のドライバーが過去1年以内にあおり運転の被害を受けたと回答しています。

法改正前の2019年9月に実施された第2回調査では、過去1年以内にあおり運転の被害を受けた割合が24.0%でしたので、大きな変化はみられません。これについては、いくつかの可能性が考えられます。例えば、法改正によって極めて悪質なあおり運転に対しては一定の抑止効果があったとしても、ドライバーが日常的に遭遇するようなレベルのあおり運転は依然として発生している可能性があります。加えて、あおり運転の背景には怒りや焦りといった感情的要因があります。そのため、厳罰化だけでは十分に対応できない側面があると考えられます。

### 2. 遭遇したあおり運転は、「後方から激しく接近された」が最多の86.5%。あおり運転をされた際の対処方法は、「道を譲った(52.5%)」、「何もしなかった(30.3%)」が上位

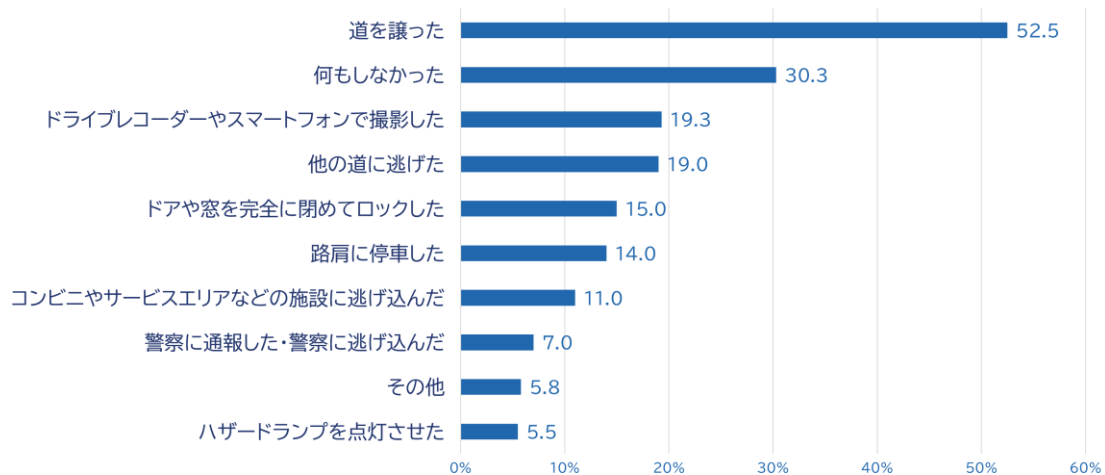
遭遇したあおり運転について聞いたところ、「後方から激しく接近された」という回答が最多の86.5%、次いで、「左側から追い越された(27.8%)」、「必要のないハイビームをされた(27.5%)」となりました。また、あおり運転をされた際の対処方法としては、「道を譲った」が最多の52.5%、次いで「何もしなかった(30.3%)」、「ドライブレコーダーやスマートフォンで撮影した(19.3%)」となり、冷静な対応を取るドライバーが多い結果となりました。

### どんなあおり運転をされましたか？



(複数回答可 回答人数 5年以内にあおり運転をされた経験があると回答した 400人)

### あおり運転をされた時にとった対処方法を全てお答えください。

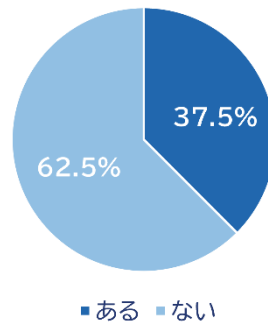


(複数回答可 回答人数 5年以内にあおり運転をされた経験があると回答した 400人)

3. あおり運転をされたきっかけに思い当たることがないドライバーは 62.5%。あおり運転をされたきっかけに思い当たることがあると答えたドライバーが考える理由として、「スピードが遅かった(36.0%)」、「制限速度で走っていた(30.0%)」と、走行速度に関する回答が多い結果に

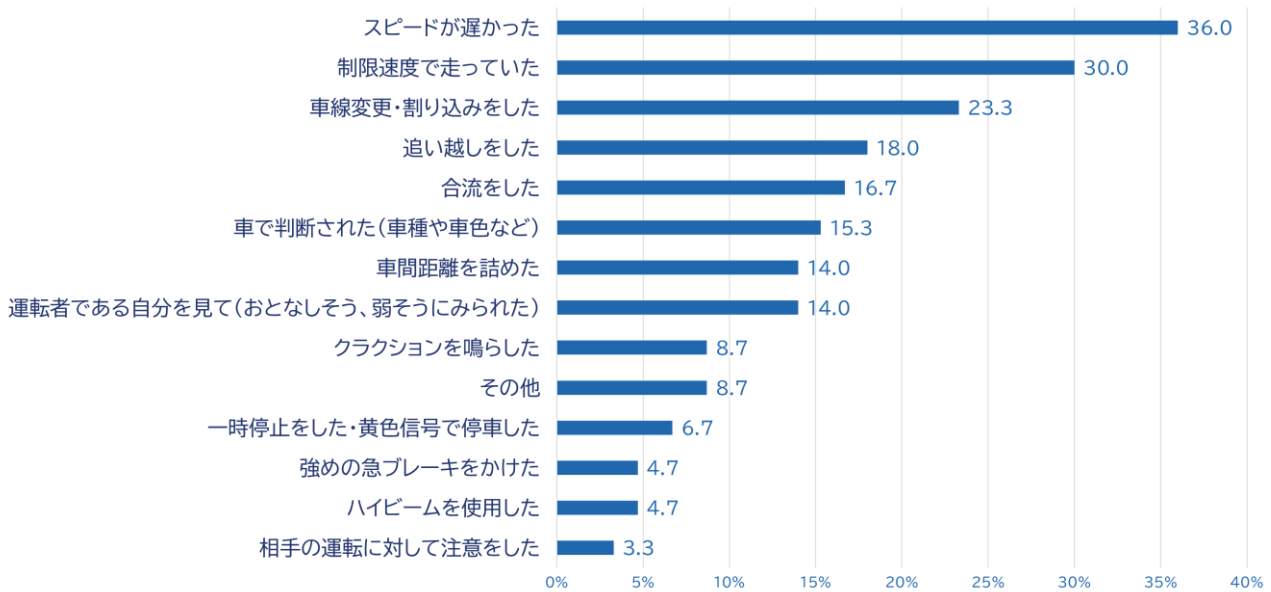
あおり運転をされたきっかけについて、思い当たることがないと答えたドライバーが 62.5%と過半数を占めました。思い当たることがあると答えたドライバーに、きっかけと考えられる運転行動を聞いたところ、「スピードが遅かった(36.0%)」、「制限速度で走っていた(30.0%)」、「車線変更・割り込みをした(23.3%)」と続き、運転速度に関する回答が上位を占める結果となりました。

あおり運転をされたきっかけについて、  
思い当たることはありますか？



(複数回答可 回答人数 5年以内にあおり運転をされた経験があると回答した 400人)

あおり運転をされたきっかけと考えられる運転行動を教えてください



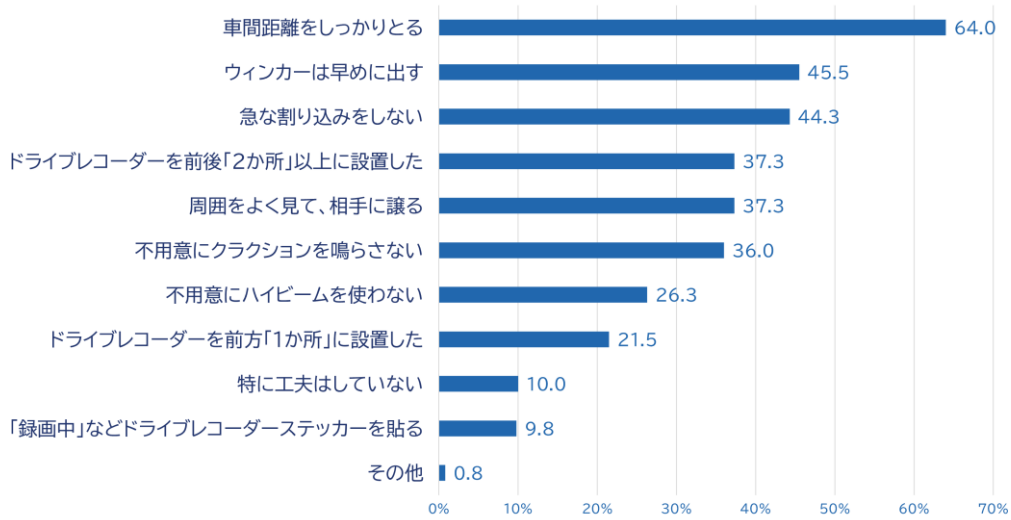
(複数回答可 回答人数 あおり運転されたきっかけについて思い当たると回答した 150人)

4. あおり運転をされないための工夫は、「車間距離をしっかりとる(64.0%)」、「ウィンカーは早めに出す(45.5%)」。「あおり運転をしている」と周囲に誤解されないために気を付けていることは、「車間距離をしっかりとる(81.5%)」、「無理な追い越しや割り込みをしない(57.8%)」となった

あおり運転をされないように工夫していることを聞いたところ、「車間距離をしっかりとる(64.0%)」、「ウィンカーは早めに出す(45.5%)」、「急な割り込みをしない(44.3%)」と続き、安全運転を心がける行動が目立ちました。

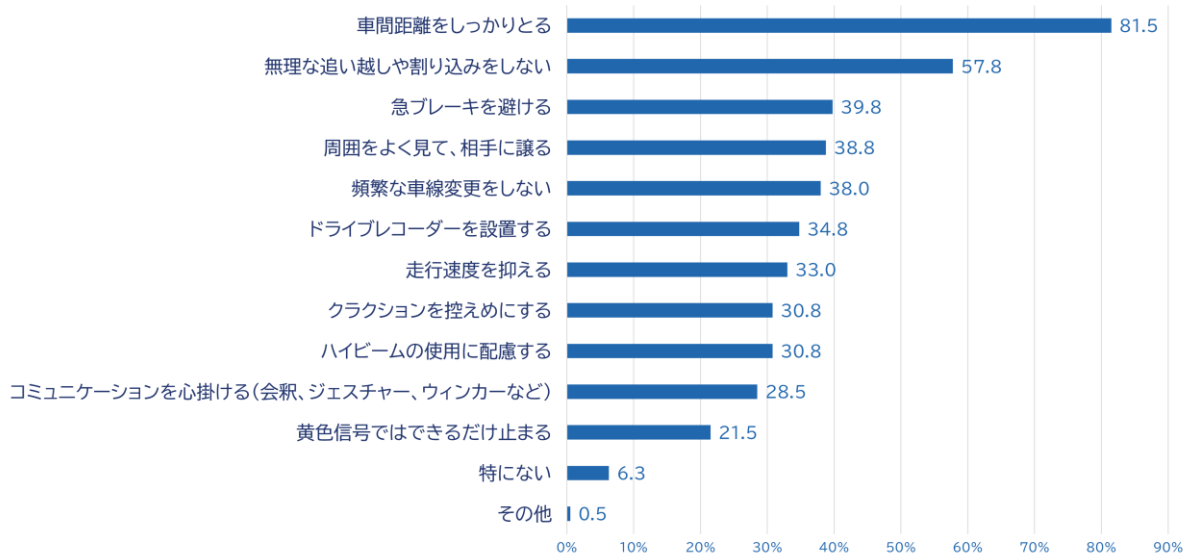
また、「あおり運転をしている」と周囲に誤解されないために気を付けていることは、「車間距離をしっかりとる(81.5%)」、「無理な追い越しや割り込みをしない(57.8%)」、「急ブレーキを避ける(39.8%)」と続き、車間距離や周囲への配慮を意識した回答が上位を占めました。

あおり運転をされないように、工夫していることを教えてください。



(複数回答可 回答人数 5年以内にあおり運転をされた経験があると回答した 400人)

「あおり運転をしている」と周囲に誤解されないために、気を付けていることはありますか？



(複数回答可 回答人数 5年以内にあおり運転をされた経験があると回答した 400人)

### 【九州大学 志堂寺教授の見解】

調査では、遭遇したあおり運転として「後方から激しく接近された」が 86.5%と突出して多くなりました。これは過去の調査でも同様の結果となっています。多くのドライバーにとって、実際に遭遇するあおり運転は、後続車から強いプレッシャーを受ける行為であることがわかります。

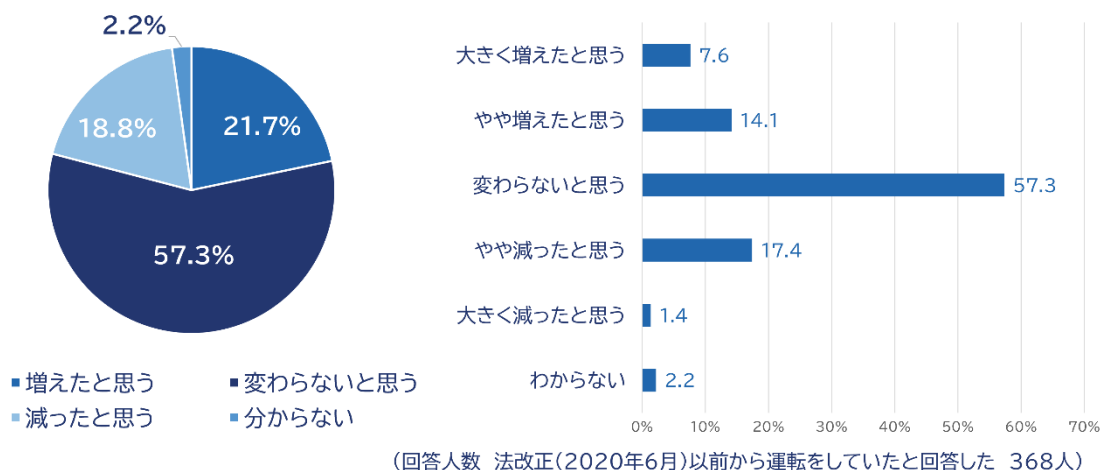
あおり運転を受けた際の対応としては、「道を譲った」が 52.5%で最も多く、「何もしなかった」が 30.3%と続きました。危険な状況で感情的に応酬するのではなく、冷静な対応を選択しているドライバーが多いことは望ましい結果と言えるでしょう。また、あおり運転をされたきっかけについては、62.5%が思い当たることはないと回答しました。注意が必要なのは、自分の行動が周囲のドライバーにどのように受け取られているかを、必ずしも正確に把握できていない場合がある点です。

また、あおり運転をされないための工夫と、「あおり運転をしている」と誤解されないために気を付けていることの双方で、「車間距離をしっかりとる」が最も多く選ばれています。これは、多くのドライバーが車間距離の確保を、事故防止だけでなく、周囲との不要なトラブルを避けるためにも重要な行動と考えていることを示していると言えるでしょう。

5. あおり運転の厳罰化を盛り込んだ 2020 年 6 月の「改正道路交通法」の施行以前と比べて、あおり運転を経験・目撃する頻度は、「変わらないと思う」が 57.3%と最も多い結果に。「やや増えたと思う(14.1%)」「大きく増えたと思う(7.6%)」と回答したドライバーの合計は 21.7%、「やや減ったと思う(17.4%)」「大きく減ったと思う(1.4%)」と回答したドライバーの合計は 18.8%となった

2020 年 6 月末に、あおり運転の厳罰化を盛り込んだ「改正道路交通法」が施行されました。それ以前から運転しているドライバーに、厳罰化の前後であおり運転を経験あるいは目撃する頻度について聞いたところ、「変わらないと思う」と回答したドライバーが 57.3%と過半数を占めました。「やや増えたと思う(14.1%)」「大きく増えたと思う(7.6%)」と回答したドライバーの合計は 21.7%、「やや減ったと思う(17.4%)」「大きく減ったと思う(1.4%)」と回答したドライバーは 18.8%となり、施行後も多くのドライバーが大きな変化を実感していないことがうかがえる結果となりました。

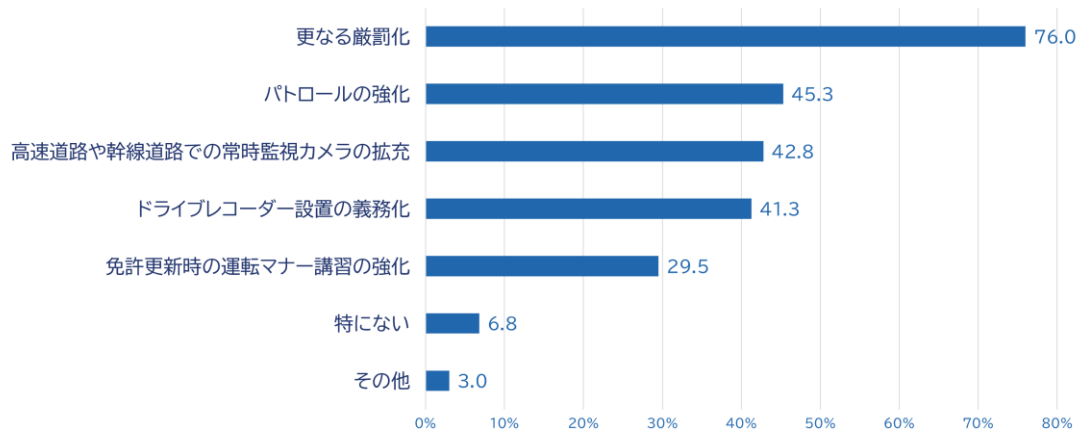
あおり運転を経験する、あるいは目撃する頻度は、あおり運転の厳罰化を盛り込んだ「改正道路交通法」(2020年6月)施行の前と今を比べて、どのように変化したと感じますか？



6. あおり運転を防止するために有効だと思う施策は、「更なる厳罰化」が最多の 76.0%

あおり運転を防止するために有効だと思う施策を聞いたところ、「更なる厳罰化」という回答が最多の 76.0%でした。次いで、「パトロールの強化(45.3%)」、「高速道路や幹線道路での常時監視カメラの拡充(42.8%)」となりました。

あおり運転を防止するために、有効だと思う施策を教えてください。



(複数回答可 回答人数 5年以内にあおり運転をされた経験があると回答した 400人)

### 【九州大学 志堂寺教授の見解】

あおり運転を経験・目撃する頻度については、改正道路交通法の施行前と比べて、多くのドライバーが「変わらないと思う」あるいは「増えたと思う」と回答しています。ただし、この質問は、あおり運転の被害を経験した人を対象としているため、ドライバー全体を対象とした場合とは異なる結果になる可能性があります。あおり運転の被害を受けた人たちの中でも、「やや減ったと思う」「大きく減ったと思う」を合わせて 18.8%があおり運転は減ったと感じていることは興味深い結果です。法改正や社会的な啓発活動によって、あおり運転の状況が改善したと受け止めている人が一定数いることがうかがえます。

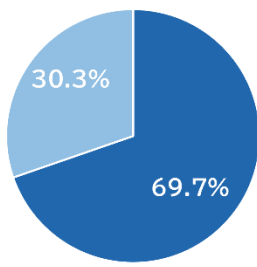
あおり運転の防止方策としては、「更なる厳罰化」が 76.0%でトップでした。また、ドライブレコーダー、監視カメラ、パトロールといった、あおり運転の抑止や検挙につながる方策もそれぞれ 40%を超える回答を得ています。こうした結果からは、被害を経験したドライバーが、厳罰化や監視体制の強化を有効な対策として認識していることが読み取れます。

### <ドライブレコーダーの利用に関する調査>

#### 7. 自家用車にドライブレコーダーを取り付けていると回答したドライバーは 69.7%

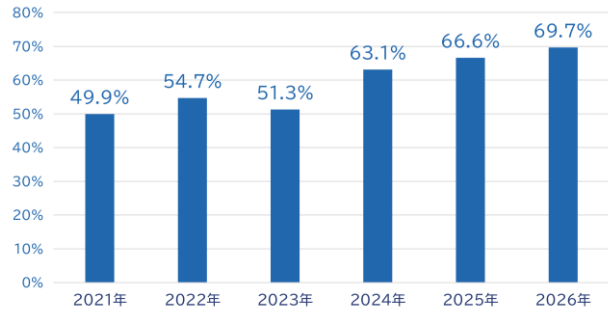
自家用車にドライブレコーダーを取り付けていると回答したドライバーは 2,000 人中 69.7%となり、昨年 2025 年に実施した調査での 66.6%から 3.1 ポイント上昇しました。ドライブレコーダーについての調査を開始した 2021 年からの結果を比較してみると徐々に割合が上昇しており、ドライブレコーダーの利用率が高まっていることがわかります。

自家用車にドライブレコーダーを取り付けていますか？



■はい ■いいえ  
(回答人数2000人)

自家用車にドライブレコーダーを取り付けていると回答した方

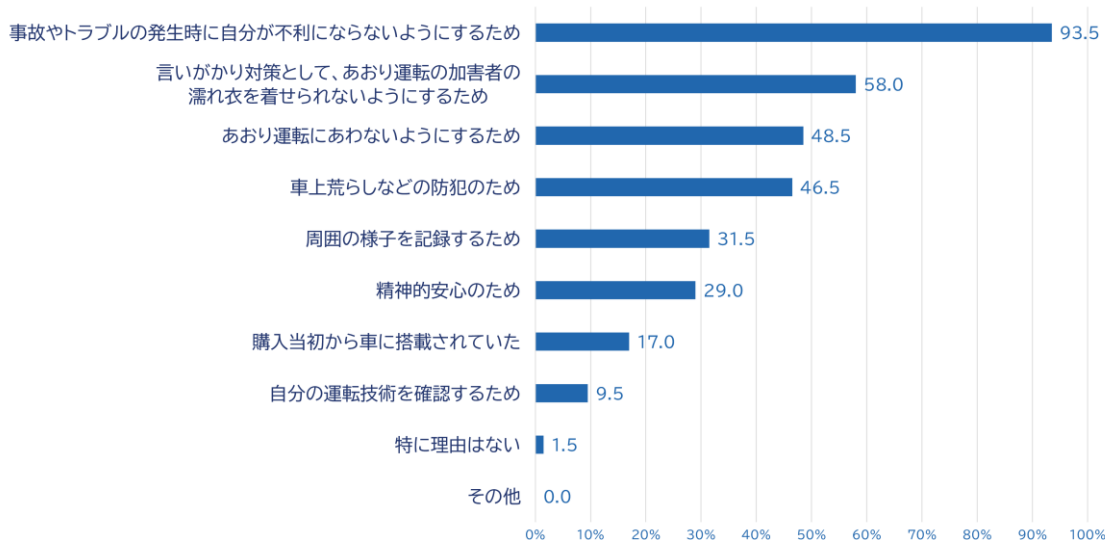


(回答人数 2021~2025年: 2230人、2026年: 2000人)

8. ドライブレコーダーを利用している理由として、最も多かった回答は、「事故やトラブルの発生時に自分が不利にならないようにするため(93.5%)」。ドライブレコーダー導入のきっかけは、「自動車事故やあおり運転のトラブルに関する報道や SNS の発信を見たため」が最多の 66.5%

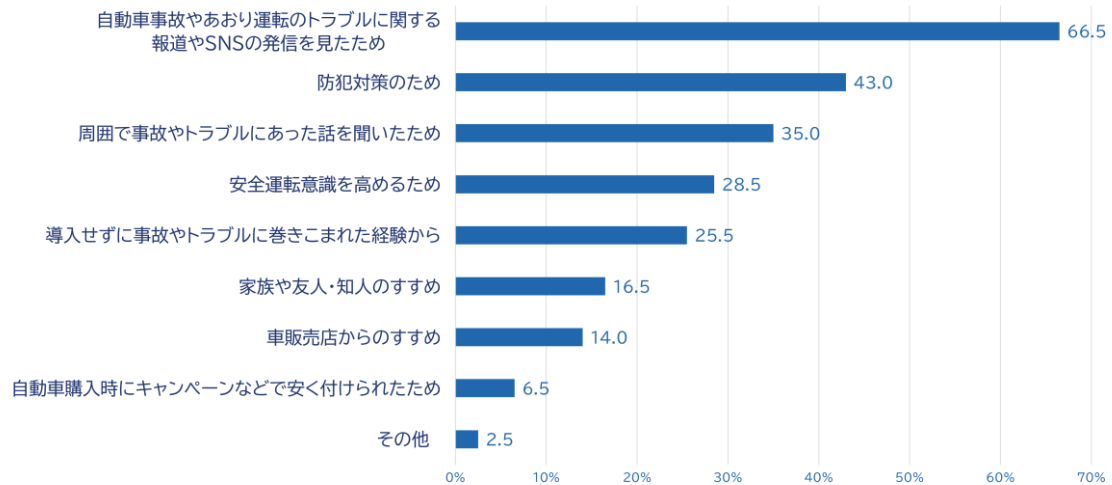
ドライブレコーダーを利用しているドライバー200 人を対象にその理由を聞いたところ、「事故やトラブルの発生時に自分が不利にならないようにするため」という回答が最多の 93.5%となりました。また、ドライブレコーダー導入のきっかけは、「自動車事故やあおり運転のトラブルに関する報道や SNS の発信を見たため(66.5%)」、「防犯対策のため(43.0%)」、「周囲で事故やトラブルにあった話を聞いたため(35.0%)」と続き、事故やトラブルに関する情報に日常的に触れるなかで、万が一に備える意識の高まりがうかがえる結果となりました。

ドライブレコーダーを利用している理由をお選びください。



(複数回答可 回答人数 ドライブレコーダーを利用していると回答した 200人)

ドライブレコーダー導入のきっかけを教えてください。



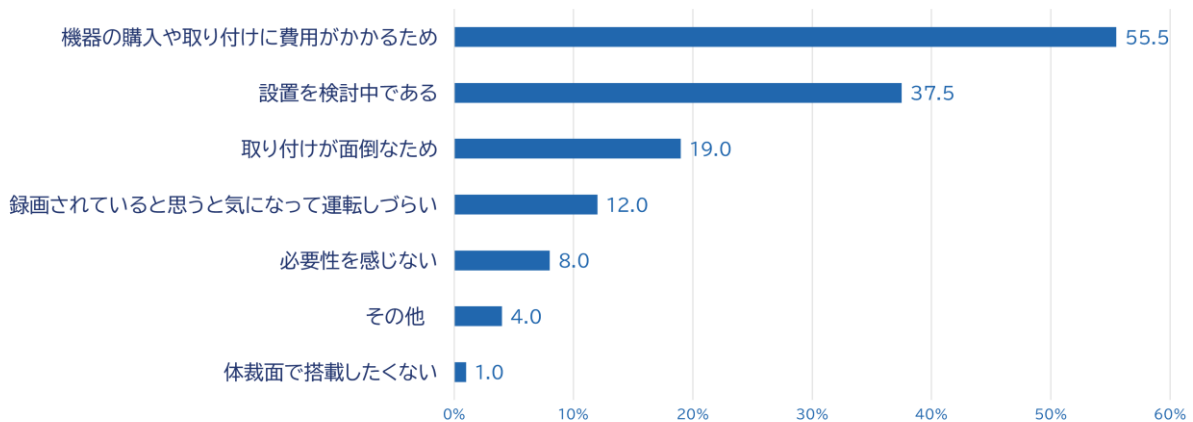
(複数回答可 ドライブレコーダーを利用していると回答した 200人)

9. ドライブレコーダーを利用していない理由は、「機器の購入や取り付けに費用がかかるため(55.5%)」、「設置を検討中である(37.5%)」と続いた

ドライブレコーダーを利用していないドライバー200人を対象にその理由を聞いたところ、「機器の購入や取り付けに費用がかかるため」という回答が最多の55.5%でした。次いで、「設置を検討中である(37.5%)」、「取り付けが面倒なため(19.0%)」という回答が続きました。「設置を検討中である」と回答したドライバーに、そのきっかけを聞いたところ、「自動車事故やあおり運転のトラブルに関する報道やSNSの発信を見たため(64.0%)」が最も多い結果となりました。

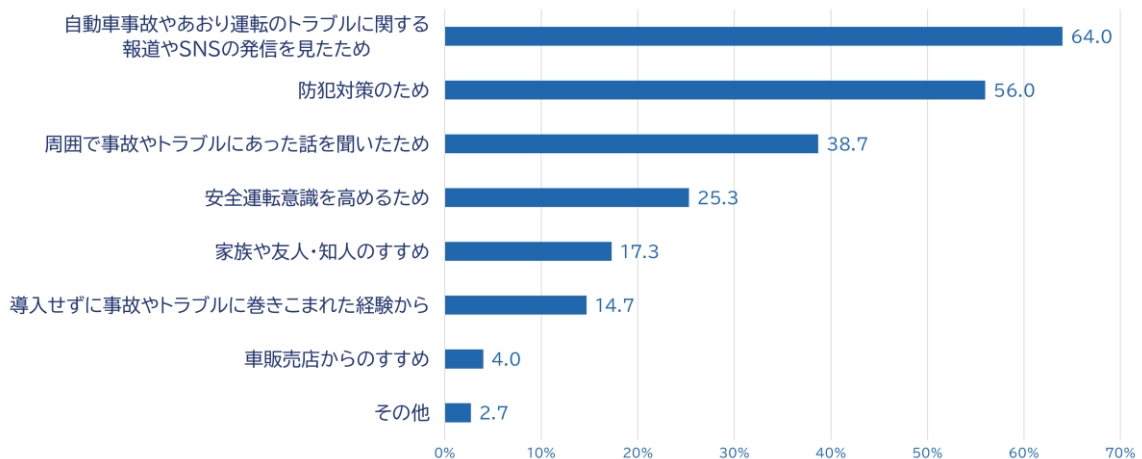
ドライブレコーダーによる事故やトラブル発生時の備え、トラブル抑止の効果は広く認識されている一方で、導入にあたってはコストや手間が障壁となっている実態がうかがえる結果となりました。

ドライブレコーダーを利用していない理由をお選びください。



(複数回答可 ドライブレコーダーを利用していないと回答した 200人)

ドライブレコーダーの設置を検討しているきっかけを教えてください。



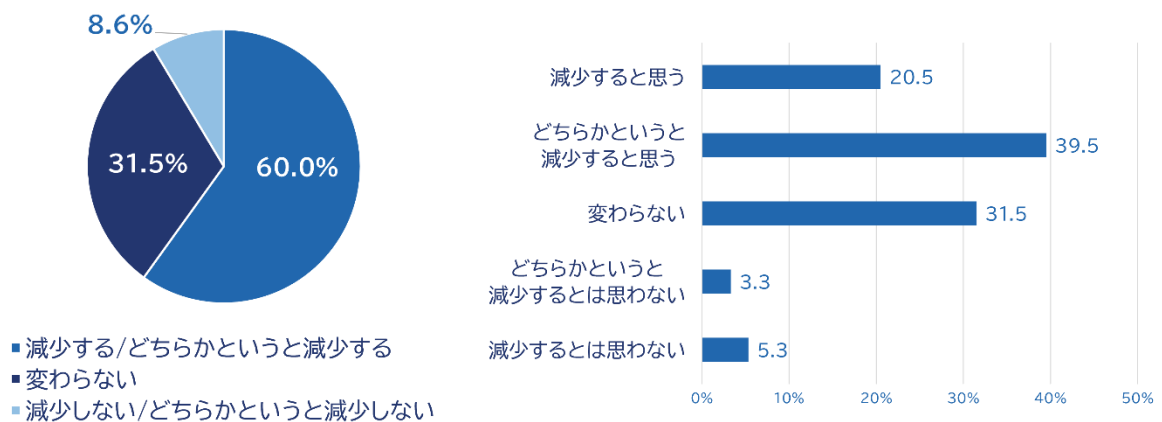
(複数回答可 ドライブレコーダーの設置を検討していると回答した 75人)

10. ドライブレコーダーの普及であおり運転が「減少すると思う(20.5%)」「どちらかという減少すると思う(39.5%)」と回答したドライバーの合計は 60.0%。また、あおり運転の減少につながると思うドライブレコーダーの機能は、「常時録画(録音)機能(76.3%)」、「通報機能(42.0%)」

ドライブレコーダーの普及であおり運転が「減少すると思う(20.5%)」「どちらかという減少すると思う(39.5%)」と回答したドライバーの合計は 60.0%と過半数を占め、「変わらない」が 31.5%、「減少するとは思わない(5.3%)」「どちらかという減少するとは思わない(3.3%)」と回答したドライバーの合計は 8.6%でした。

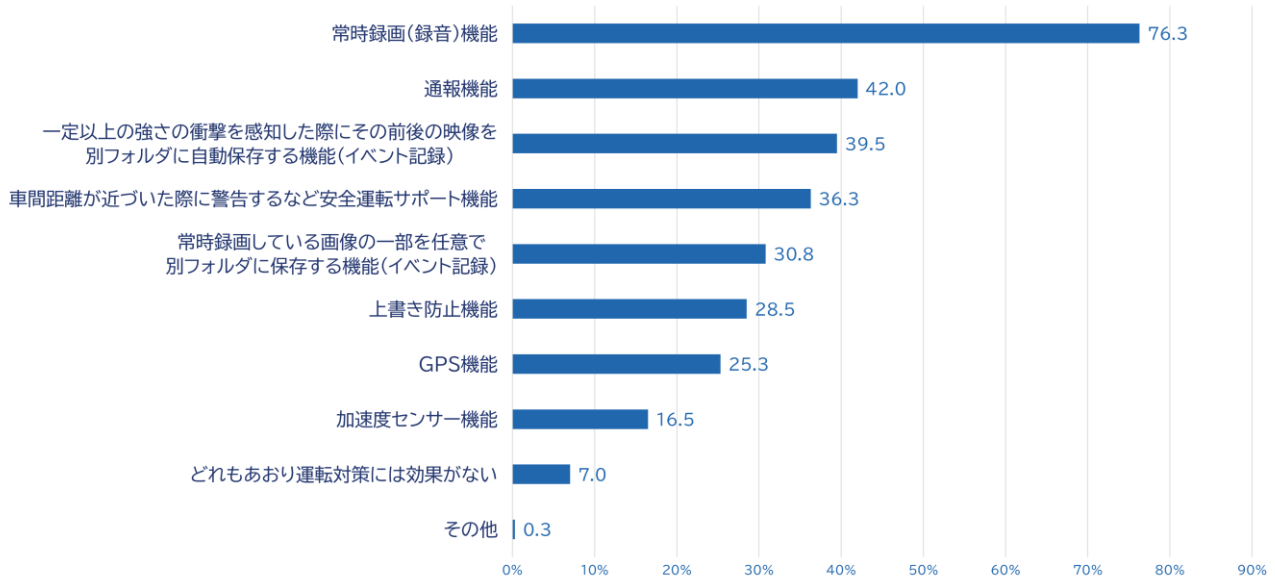
また、あおり運転の減少につながると思うドライブレコーダーの機能を聞いたところ、「常時録画(録音)機能(76.3%)」が最も多く、次いで「通報機能(42.0%)」、「一定以上の強さの衝撃を感知した際にその前後の映像を別フォルダに自動保存する機能(イベント記録)(39.5%)」が続きました。

ドライブレコーダーの普及であおり運転が減少すると思いますか？



(複数回答可 回答人数 400人: ドライブレコーダー利用者200人、非利用者200人)

### あおり運転の減少につながると思うドライブレコーダーの機能は何だと思いますか？



(複数回答可 回答人数 400人:ドライブレコーダー利用者200人、非利用者200人)

#### 【九州大学 志堂寺教授の見解】

ドライブレコーダーを設置している方の割合は年々増加しており、今年も 69.7%に達しました。また、現在設置していない方のうち 37.5%は設置を検討しています。近年、自動車にはさまざまな安全装置が搭載されるようになっていますが、ドライブレコーダーは交通事故やあおり運転、防犯など、万一の事態に備えるための重要な装備として定着しつつあると言えるでしょう。

また、回答者の 60.0%がドライブレコーダーの普及によってあおり運転が減少すると考えています。加えて、あおり運転の減少につながると思うドライブレコーダーの機能としては、「常時録画(録音)機能」が 76.3%と最も多く選ばれました。これは、ドライブレコーダーが事故やトラブル発生時の状況を客観的に記録できるだけでなく、「見られている」「記録されている」という意識を周囲のドライバーに生じさせることで、あおり運転をはじめとする攻撃的な運転行動を抑制する効果(いわゆる「監視効果」)が期待されているためです。



#### 【志堂寺 和則 九州大学大学院システム情報科学研究院教授】

1962 年生まれ。九州大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。九州大学助手、長崎大学講師、九州大学助教授、准教授を経て現在に至る。専門は、交通心理学、ヒューマンインタフェース。実車やドライビングシミュレータを用いたドライバーの運転行動の計測や運転適性の研究に従事。著書には、『交通心理学』(北大路書房 分担)、『交通心理学入門』(企業開発センター 分担)、『交通事故防止の人間科学』(ナカニシヤ出版 分担)、『ヒューマンインタフェース』(コロナ社)、『レクチャー ヒューマンコンピュータインタラクション』(数理工学社)、『大切な親に、これなら「決心」させられる！ 免許返納セラピー』(講談社 監修)などがある。